



2023年度 市政懇談会
＜鶴川地区町内会・自治会連合会＞

次 第

[日時] 2023年11月7日(火) 18:30 ～ 20:00

[場所] 鶴川市民センター ホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 横山 法子
鶴川地区町内会・自治会連合会 大石 正幸

○ 連合会長の挨拶

鶴川地区町内会・自治会連合会 会長 仲村 清彦

○ 市長の挨拶

町田市長 石阪 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

- 1 鶴川駅南側整備及び北口広場拡張計画の進捗状況について
【都市づくり部】 【道路部】
- 2 鶴川駅を中心とした交通渋滞解消方策は進んでいますか
【道路部】
- 3 都市計画道路の整備促進の働きかけを更に
【道路部】
- 4 鶴川地区の図書館について
【生涯学習部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 鶴川地区町内会・自治会連合会 長倉 孝

**2023年度 鶴川地区町内会・自治会連合会 市政懇談会
議事録（要旨）**

[日 時] 2023年11月7日（火）18：30～20：00

[場 所] 鶴川市民センター ホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

都市づくり部都市整備担当部長 平本 一徳

道路部長 萩野 功一

生涯学習部長 佐藤 浩子

鶴川地区町内会・自治会連合会長 ほか22名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

鶴川市民センター長

司会進行：市民協働推進担当部長

鶴川地区町内会・自治会連合会

○連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 鶴川駅南側整備及び北口広場拡張計画の進捗状況について

（1）駅南側整備計画の進捗状況が、昨年と比べてどれだけ進んだか知らせてください。

（2）北口広場拡張計画の進捗状況を報告してください。

【回答】

都市づくり部都市整備担当部長

（1）の駅南側整備計画の進捗状況につきまして、お答えいたします。

鶴川駅の南側におきましては、現在、3つの整備事業を進めております。

1つ目の鶴川駅南土地区画整理事業につきましては、2022年度に、区域内地権者の移転先等を定める換地設計の決定や、移転後の再建築において、商業機能等の立地を可能とするため、地区計画及び用途地域等の都市計画変更を行いました。

2023年度につきましては、移転対象となる地権者の皆様の補償算定や、移転協議を、順次進めております。

また、10月には、先ほどの換地設計や都市計画変更等の内容に合わせる

事業計画の変更を行いました。

今後は、2024年1月以降、工事に必要となる作業通路の築造に取り掛かり、2024年度から、雨水調整池の工事に着手してまいります。

2つ目は、区画整理事業の西側に位置する地区において、区画整理事業区域と鶴川2号踏切とを結ぶ、西側主要生活道路整備事業です。

2022年度につきましては、現道の污水管整備を完了いたしました。また、沿道地権者の皆様へ、個別に整備の内容や進め方を、ご説明いたしました。

2023年度につきましては、路線測量を実施するとともに、沿道地権者の皆様に立ち会い頂き、土地の境界確認を、順次、進めているところでございます。

今後につきましては、2023年度中に、用地取得に必要な測量を完了させ、2024年度に、道路の線形や構造に関する設計に着手する予定です。

3つ目の岡上駐在所前交差点から鶴川駅南口に至るアクセス道路の整備につきましては、2022年度に、用地測量や橋梁の詳細設計を実施いたしました。

2023年度につきましては、道路の詳細設計や、川崎市などの関係機関との協議を進めるとともに、岡上40号線において、支障物の移設工事を実施してまいります。

どの事業におきましても、地権者をはじめとする地域の皆様方のご理解・ご協力を賜わり、予定通りに、進めさせていただいているところです。

今後、どうぞよろしくお願いいたします。

道路部長

(2) 「北口広場拡張計画の進捗状況について」にお答えいたします。

鶴川駅北口交通広場再整備事業につきましては、2021年度から工事に着手いたしました。

昨年度(2022年度)は、新しい北口交通広場の歩道や車道部分及び排水設備などの築造とバスシェルターの建築工事を実施いたしました。

今年度(2023年度)は、昨年度に引き続き北口交通広場の築造とバスシェルターの建築工事を進め、年明けの2024年2月に、現在の交通広場から、図に示したようにタクシー乗車場をはさんで、バス乗車場を2箇所設置した新しい北口交通広場への切り替えを行う予定です。

来年度以降は、自由通路整備に着手し、北口交通広場の一部についても工事を進め、小田急電鉄施工の駅舎と共に2027年度の完成を目指してまいります。

なお、工事に際しましては、鶴川駅やその周辺施設をご利用の皆様及び、近隣にお住まいの方々にはご迷惑をおかけいたしますが、安全には十分配慮

し工事を進めて参りますので、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

《質疑》

公団住宅鶴川団地自治会

工事の進行上、数日前から意見が言われたので聞きますが、鶴川団地から降りたバスのところから、マルエツとか協同歯科があるのですが、あそのところが全部ふさがれているのです。相当な遠回りをするような形になるので、仮の歩道ができないのかどうか、できたらお願いしたいと思います。

道路部長

これまでは、マルエツの前に横断歩道がありましたが、この前でバスのシェルターの屋根を築造する工事に入っております。そのため、もともとあった横断歩道から100mぐらい東へ行ったところで横断していただいている状況になっており、大変ご不便をかけていることは私どもも承知していますが、バスの上屋を造る関係で、今、全部掘削をしております、警察にも仮横断歩道の協議はしたのですが、なかなか難しい状況です。したがって、2月に新しい広場へ切り替えますので、それまで大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2 鶴川駅を中心とした交通渋滞解消方策は進んでいますか

- (1) 鶴川東交差点から上麻生交差点にいたる渋滞解消対策
- (2) 金井入口交差点の渋滞解消対策
- (3) 鎌倉街道の整備促進と交通渋滞解消対策
- (4) 岡上駐在所前交差点の渋滞解消対策

【回答】

道路部長

議題2「鶴川駅を中心とした交通渋滞解消方策の進展状況について」の(1)「鶴川駅東口交差点から上麻生(かみあさお)交差点に至る渋滞解消対策」についてでございますが、東京都が施行主体となっている、鶴川駅東口交差点から川崎市境までの810m区間については、「東京における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)」において、2025年度までに、優先的に整備すべき路線と位置付けられておりますが、現時点で、整備時期は未定と伺っております。

また、川崎市が施行主体となっている、川崎市境から三井住友銀行柿生支店前までの約430m区間の上麻生Ⅱ期工区については、用地取得を進めており、2023年3月時点の用地取得率は31%と伺っております。(20

22年3月時点は26%)

次に、(2)「金井入口交差点の渋滞解消対策」についてでございますが、金井入口交差点の渋滞は、鶴川方面の公共バスや一般車の交通集中によって発生しており、当該交差点改良などによる抜本的な渋滞緩和対策は難しい状況です。

現在、町田市では議題1にありました北口交通広場の拡張整備を進めており、北口交通広場の交通容量の増加と、南口交通広場の整備による南北の交通分散によって、駅周辺の交通渋滞緩和を図ることを目指しております。これらの事業完了と連動して金井入口交差点の渋滞緩和に繋がることを期待しているところです。

次に、(3)「鎌倉街道の整備促進と交通渋滞解消対策」についてでございますが、東京都が施行主体となっている鎌倉街道につきましては、今井谷戸交差点から薬師中学校北側の薬師池交差点までの740m区間を薬師池I期事業区間として、現在用地取得を進めており、2023年4月1日時点の用地取得率は、昨年度と変わらず47%と伺っております。(2022年4月1日時点は47%)

その先の、薬師池交差点から新袋橋交差点手前のガソリンスタンド付近までの1,040m区間を薬師池II期事業区間として、現在用地取得を進めており、2023年4月1日時点の用地取得率は、30%と伺っております。(2022年4月1日時点は28%)

なお、世田谷通り、芝溝街道及び鎌倉街道については、今年の5月に市長及び副市長から東京都南多摩東部建設事務所長に対し、各事業の早期着手や整備促進を要請するとともに、進捗状況について情報共有を図っております。

最後に、(4)「岡上駐在所前交差点の渋滞解消対策」についてでございますが、議題1にもございました岡上駐在所前交差点から鶴川駅南口に至るアクセス道路の整備に合わせて、川崎市が岡上駐在所前交差点の改良を行う予定であり、現在、神奈川県警察と協議の上、設計を進めているとのことです。

駅南口へのアクセス道路整備と岡上駐在所前交差点の改良は、三輪方面から鶴川駅に向かう交通を分散するとともに、交差点内の円滑な交通処理に繋がりが、岡上駐在所前交差点をはじめ、駅周辺の交通渋滞緩和に寄与するものと考えております。

今後のスケジュールにつきましては、2027年度の工事完了を目指して調整を進めてまいります。

《質疑》

金井町内会

用地買収取得が去年と比べて47%、全然変わっていないというのはどう

ということでしょうか。

道路部長

薬師池のところ、鎌倉街道の部分だと思いますが、東京都から細かいところは確認していませんが、考えられるのは、用地取得の予算が十分確保できていないということ、もしくは、地権者交渉で一部滞っているかもしれません。進んでいない情報を正確に確認できておりません。

3 都市計画道路の整備促進の働きかけを更に

- (1) 真光寺から黒川に抜ける都市計画道路の整備促進の働きかけ
- (2) 広袴から栗木への都市計画道路の整備促進の働きかけ

【回答】

道路部長

議題3「都市計画道路の整備促進の働きかけについて」の(1)「真光寺から黒川に抜ける都市計画道路の整備促進の働きかけ」についてでございますが、東京都では、町田都市計画道路3・4・23号の内、真光寺十字路交差点の北側から川崎市境手前までの940mの区間において事業を進めており、この区間の用地取得率は昨年度と変わらず93%で、未整備となっている市道鶴川556号線から北側の区間について、引き続き、用地取得を進めていると伺っております。

事業区間から先の、川崎市境までの約30mの区間については、第四次事業化計画において、東京都が2025年度までに、優先的に整備すべき路線と位置付けられておりますが、接続する川崎市側の様子見の状況であり、現時点で整備時期については未定と伺っております。

一方で、川崎市は、市境からセレスモス麻生店前の交差点までの約470m区間を、「第2次川崎市道路整備プログラム（後期の取組）」において、2026年度から2029年度に着手する路線と位置付けておりますが、現時点で着手時期は未定と伺っております。

(2)「広袴から栗木への都市計画道路の整備促進の働きかけ」についてでございますが、町田都市計画道路3・4・30号と接続する川崎都市計画道路3・4・23号については、川崎市に確認したところ、第2次川崎市道路整備プログラムにおいて整備推進路線として位置付けられておらず、整備時期は未定と伺っております。

川崎市に対しましては、引き続き、川崎・町田道路連絡調整会議などを通して、都市計画道路の整備推進や交差点の渋滞解消対策の早期実施について、要請してまいります。

《質疑》

金井町内会

川崎市への働きかけは毎年行っているとのことですが、これをもう少し頻度を上げることはできないのでしょうか。

道路部長

幸いにも川崎市は今、鶴川駅の関係で、都市づくり部、道路部共に、結構頻繁に調整しております。その中で、都市計画道路の話も出ますが、各自治体の計画に基づいて整備をしている状況です。例えば広袴から栗木のところは過去20年ぐらい前から要請していますが、一向に進んでいない。町田市のところは区画整理で既にできていますが、会う機会がある際にお話ししております。ただ、その頻度を上げてこれができるという問題ではなく、川崎市の優先度の考え方の中で決まっていますので、市としても粘り強く要請していきたいと思っています。

4 鶴川地区の図書館について

町田市鶴川地区は人口十万人、面積二十平方キロメートルを超えています。ポプリホールの図書館の開館によって、鶴川六丁目にある鶴川図書館の閉館が決まりました。しかし、ポプリホールは鶴川駅至近に存在するためにバスと電車の便は良いのですが、駐車場と駐輪場がありません。鶴川地区のほとんどの住民は車を足として生活しています。駐車場のない施設は非常に使いにくいのです。現状のポプリホールの鶴川駅前図書館は、能ヶ谷、大蔵と鶴川の一部の住民以外には使用しにくいのが現状です。十万人の人口に対してもう一か所の図書館が必要です。

鶴川地区では学校の統廃合が進められています。廃校になる学校の施設を利用して市民会館を運営し、その中に鶴川西地区の図書館を併設すれば良いのです。

鶴川六丁目の鶴川図書館を廃止したのちには、廃校になる学校跡地に図書館の開設を検討いただけないでしょうか。

【回答】

生涯学習部長

鶴川地区の図書館についてお答えします。

今後の人口減少や財政状況の見通し、施設の老朽化を踏まえますと、全ての公共施設をこれまでと同様に維持することはできない状況でございます。

こうした状況の中、図書館では、将来に渡りサービスを継続していくため、

近接している図書館がある場合や、利用状況が大きく減少している場合には老朽化の状況を見ながら再編を進めることとしております。

そのため、現時点で鶴川地区に新しく図書館をつくる計画はございません。

再編の対象となっている鶴川6丁目にございます鶴川図書館につきましては、これまで約3年間という時間をかけ、地域の皆様との意見交換を重ねた結果、2025年度に地域の方々が主体となって運営する民設民営の図書コミュニティ施設へと転換する運びとなりました。

ここでは、施設が所蔵する本の閲覧や貸し出し、予約をした市立図書館の本の受け取りが可能となる予定です。また、目的や用事が無くても立ち寄ることができる地域の居場所としての機能を高めていきたいと考えております。

引き続き、皆様のご協力・ご支援をよろしく申し上げます。

《質疑》

真光寺町内会

図書館を廃止して図書コミュニティ施設という名称で、訳の分からない施設をつくるのが私は一番問題だろうと思っています。要は、コミュニティ施設という形で議論は進めてきておりますが、あくまでも図書館ではないし、じゃ、何なのだというのが、はっきり言って、今の段階では明確に定義されていない。ただサロンがあって、図書館の図書の貸出窓口ができますという対応になっている。だから、これはこれからの鶴川地区の都市計画と、それから、私たち住民がどういうまちをつくっていくかという問題になっていくと思うのですが、それこそ、市長に提案したいのだけれども、廃校になる学校をうまく市民会館として私ども住民に利用させていただいて、その一部の機能として、例えば鶴川の図書館を再建するという形で、これから私どもは提案して、地域住民の運動としてやっていきたいと考えているのです。だから、これからずっと先の話になりますが、少なくともこの地域の文化施設をどうつくって、私たち鶴川の市民がどうしたらいいまちをつくれるかということで、図書コミュニティといういいかげんな施設は逆に言ったらつくらないほうがいいのではないかという考えがございます。そういう、いわばごまかしの施設をつくるよりは、もっときちんとした町田市としての都市計画の対応をもう1回再考していただきたいと思います。

生涯学習部長

私からお答えさせていただきます。

まず、図書コミュニティ施設という聞き慣れない施設なのですけれども、こういった図書コミュニティ施設というものは、ほかでは全く例のないものになっております。ですので、分からないというのはおっしゃるとおりかと

思っておりますが、新たに取り組んでいこうということで今進めていることになりますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。

また、図書コミュニティ施設につきましては、様々皆様方からのご意見を伺う中で、こういった機能があればいいというようなお話をいただいた上で、その機能を備えた施設、コミュニティ施設ということで、私どもとしては考えております。例えば予約した本が受け取れることができればいいですとか、本というものを介して人が集まってコミュニティが生まれる場所になればいいというお声をいただいたということで、この図書コミュニティ施設というものの結果になっておりまして、仲村会長にもいろいろとご協力をいただいているところでございますが、これから始めることですので、これを進める中では、今後ともご意見をいただきながら、よりよいものにしていきたいということで考えておりますので、よろしく願いいたします。

それから、廃校となる学校の跡地の関係でございますが、担当している部署の話によりますと、そういった検討については、新たな校舎ができるような、6年ぐらい前から皆様方にいろいろなご意見を伺いながら検討を始めるということで聞いておりますので、鶴川の今後の計画ですと、例えば真光寺中ですとか、それから、大蔵小などもあろうかと思っておりますけれども、まだ少し先の話かと思っております。現時点で図書館をつくるという考えは持ち合わせておりませんが、先になりまして、様々、社会情勢、それから、図書館の利用状況の変化も踏まえて、今後の検討課題とさせていただければと思っております。

金井町内会

最初の北口広場の拡張の件なのですけれども、うわさで聞いたのですが、連結の大きなバスが入るのではないかと聞いたのですが、そのような情報は入っていますでしょうか。

道路部長

連節バスについては、先月、連節バスが問題なく曲がれるかどうか、鶴川駅の広場で実査をしました。多分それを見られたのかなと思っておりますが、これから大きなイベントとか、Jリーグだとか、GIONスタジアムにお客様を運ぶ際に、連節バスがきちんとあそこに入るのかどうかというのを確認しました。まだ途中の芝溝街道に課題がありますが、走行上の問題がなければ、鶴川駅に連節バスを入れてお客様を運ぶことを考えているところです。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

第2部と言いながら、第1部の内容で補足の説明をしたいと思います。

まず、区画整理事業等は、さっき部長がお話ししたように、比較的予定のとおりに進んでおります。

2番目の北口広場のほうは結構錯綜します。バスの乗り降りの機能を維持したまま新しくつくり替えるという仕事をしていますので、さっきのような、一時的に不便になるのかというのは、これからも結構起こります。

それと、まだまだ駅ビル計画がかっちりでできていません。タクシーの乗車口に小田急が駅ビルをつくることになっていきますので、それに伴ってまた幾つかの問題が生じます。当然なのですが、駅ビルは商業ですから、既存の商業施設とのすみ分けという問題が出てまいります。現在のマルエツさんも含めて、どういうふうにするか。マルエツと同じようなスーパーがどんどんできてしまうのでは結構大変ですし、駅ビルとしてはデパ地下みたいなものが必要なかという気もしますから、そういう意味では、既存の今の商店街の機能と駅ビルの機能、あるいは既にある小田急OXというスーパーとの関係、駅ビルとの関係を含めて、商業ビルの検討を進めていきます。以上が北口の話です。

渋滞対策のほうは、10年ぐらい同じ答弁をしているような気がするのですが、すけれども、やはり川崎市との関係は非常に難しく、川崎市は川崎市の優先順位でやっているというのが一番大きなネックになっています。

こういう問題は、実は相模原市と町田市の間にもありまして。例えば、相原駅から相模原に抜ける計画路線があるのですがすけれども、用地買収が町田市側はもう終わっているのだけれども、相模原市側ができていなくて橋ができないということがあります。町田市は神奈川県ではありませんで、東京都なものですから、都道府県自体が違うというので、直接やるというのはいまうまく回らない。上下はないのですが、上級官庁である東京都とはやれるのですがすけれども、神奈川県とはやれないし、政令市である相模原市、川崎市とはなかなかやりにくい状況になっているというのが、私どもが半島のように神奈川県に出っ張っているというところに非常に大きな難しい隘路になっているということでございます。

それから、私も随分気が長くなったのですが、気が長くなった割にはいらいらしているのは、鎌倉街道はずっと20年間、東京都の重点整備路線になっているのです。あと10年ぐらい先もきっと重点整備路線なのです。ということは、10年やっても終わらない、東京都の中でもそうなのです。私が市長になったのが18年ぐらい前で、その前、菅原神社のところから、右側に曲がって左に行くと町田高校の通りになるのですが、その間は大きな崖というか、山があったのです。あそこは切ってしまったから分からなくなりました。あれが切れたのが、今から20年ぐらい前です。道路が少し広がったのです。また、今のリス園のところは広げないといけませんね。石阪石

油のところからずっと北へ、あそこも用地取得率が少ないわけですね。20年も鎌倉街道、用地買収をやっているのです。今井谷戸から用地買収を始めてもう5年ぐらいたっているのです。でも、形が見えてこないということで、生きているうちはできないぐらいの感じで道路整備を見えています。

経済効果を狙うのであれば一気にやるべきだというのが私の主張なのですが、私は都知事選挙に出ませんので、どうもこれはできそうもない。重点的に路線を一気に整備しない限りは、投資効果というのは、現在税金を納めている人の税金が生きてくるのが20年先、30年先になってしまうというのは、経済効果としてもよくない。例えばやるのであれば、鎌倉街道を一気にやるのだという意気込みでやらなければいけないし、順番があるのでしょうか、道路を選んで経済効果を早く出すというのが本来の考え方ではないかと思っていますので、東京都の建設局の考え方にはなかなか賛成できないと思っています。

それから、施設の話がいろいろ、会長から出ていたのかな。私には3人の兄がいて、1人は亡くなりました。私が市長になったときに最初に言ったのは、鶴川村、とりわけ野津田とか、金井とか、小野路とか、そういうところは、俺が生まれた頃から変わっていないぞ、芝溝街道は昔からあったんだぞ、唯一変わったのは綾部のトンネルだと。それ以外、東京都は何の投資もしていない、1か所投資したのは、小山田の緑地を買ったことぐらいだということで、東京都の投資が非常に少ないということなのです。町田市の市長になって、野津田に利益誘導ではなくて、野津田に、小野路に、金井に何ができたのだと言うわけですよ。確かに道路以外はほとんど何もやっていないし、道路も若干の拡幅をやっているだけです。芝溝街道自体も、おふくろが生きていたから、二十何年たっているのですよ。それでもまだ並木のお墓のところぐらいまでしかできていない。そういう意味で、投資が非常にされていないと思っています。そのことは市長として東京都の中では随分言っているのですけれども、一種、ごまめの歯ぎしりみたいに思われていて、なかなか取り組まれていないのですが、正直に言うと、同じ税金を払っていて、東京都の投資が非常に少ないと感じています。

ゼルビアというチームが今回、J1に上がることになりましたが、ライセンスが取れたのは19年なのですね。19年のときには何と全部で2010年ぐらいからあそこの芝を整備して、80から90億ぐらいあそこに投資しているのですが、それでやっとJ1のライセンスが取れたのです。サイバーエージェントが参加して、練習場が三輪にできたとか、クラブハウスができたというのは数億の話なのですね。実際にお金がかかっているのはJ1仕様のスタジアムを造ることなのです。

実は調布に味の素スタジアムがあるのですが、あれは東京ヴェルディのホームスタジアムです。東京都立ですから、稲城市は一円も出していません。

何百億円もかかっていますけれども、東京都立のスタジアムなのです。それをネーミングライツで味の素という名前がついているだけですけれども、それはFC東京も使っています。そういう意味では、地元が、市が負担して、何かつくっているわけではないのですね。サッカーをあげつらってもしようがないのですけれども、それを一つとっても、東京都の投資が最近ないのです。これはもちろん黙っていたわけではなくて、東京都のほうには随分お願いをしていたのですけれども、最終的に一円も頂けませんでした。皆さんには本当に申し訳ないのですが、私の力不足で、なかなか東京都からの投資をたくさん頂けていないと、おわびしたいと思っております。

第2部では、紙をお渡ししておりますので、抜粋して話をします。

まず、待機児童は、市内地域で30人、そのうち南地域に20人近くの待機児童がいます。今年度新たに南地域に60人定員をつくっている最中です。ですから、来年の4月は10人かそこらの待機児童になると思います。26市で町田の待機児童数は3番目に多い状況です。ほかの市の保育園はみんな定員割れという状況になっています。町田市は待機児童はありますが南地域で、忠生地域が一番定員割れをしています。そういう意味では、少し時代が変わりました。今、議論になっているのは、定員割れして、統合する、こっちの保育園とこっちの保育園を1つにするということが話題になり始めました。そうでないと、民営ですから、子どもがいなくて経営が厳しくなるという時代をそろそろ迎つつあります。

学童保育は待機児童ゼロです。ただし、これはまたほかと逆で、待機児童ゼロの市はあまりありません。ほかの三多摩のほかの市は待機児童ありです。新聞によく出てくる「小1の壁」というのは、ほかの市では結構あります。つまり、学童に入れなくて仕事を辞めるとか、そういう事態が出てきているのは、ほかの市で、今年も新聞で問題として取り上げられています。町田市でそういう話がないもので、あまり注目されませんが、ほかの市は学童のほうは結構大変です。

それから、4番目の都立の児童相談所、現在、八王子にあるものが町田市につくられることになりまして、まだ確定していませんが、山崎保育園の隣の土地に校舎がありますので、あそこを使って再来年ぐらいにスタートする予定です。その後、旧忠生第四小学校、教育センターというところに児童相談所と子ども家庭センターと母子保健の保健所の機能、教育相談施設も全部あそこ一緒にできるということを考えております。

今、児童相談所は、ご案内のとおり、ほとんどの仕事が児童虐待なので、親御さんと面会します。親御さんは働いていますから、多分20時前くらいから実際の話合いになりますので、町田の担当の人は、町田に来て話合いが終わって、それから八王子に帰るという毎日を過ごしていますから、結構厳しいと思います。それが、エリアを分割してできるということになりました。

それから、小山田桜台というところに今年の7月に児童館ができました。その次の計画として、成瀬のこどもクラブが、来年度、24年度整備ですが、ちょっと遅れているので、多分25年度に開館すると思います。成瀬コミュニティセンターというところの前に、昔の成瀬小学校に来年つくって、25年の秋に成瀬のほうができるということをつくっています。

その次の子どもクラブ、児童館は、金井地区につくるということで今進めています。金井地区の用地をまだ確定しているわけではないのですが、エリア的にはつるっこがこっちにあるので、向こう側になると思います。それは成瀬ができた後にまた設計して、建設してぐらいのスケジュールだと思います。町田市内の児童館、あるいは子どもセンターの計画は、今のところ金井地域で全計画終了という予定です。

学校の統合計画は進んでおりまして、今のところ、鶴川西も東も新しい名前ができていますと聞いています。

学校の給食センターなのですが、鶴川地区については24年度、来年度の3学期、1年2か月ぐらい先に中学校全員給食が鶴川地区が始まります。早いところは、堺なのですが、来年の9月から始まると聞いています。一番遅いのは、25年の2学期の南地域になるかと思っています。いずれにしても、中学校給食センターは、まだ分かりませんが、いろいろな給食サービス、地域への給食サービス、場合によっては学童も考えているらしいのですが、プライベート・ファイナンス・イニシアティブというPFIの事業の中でやっています。確定的なことはまだ聞いていませんが、中学校給食以外の配食も、つまり、施設があるわけだから、やりたいということを行っているそうです。災害時の炊き出しもやろうと思っています。

小学校、中学校と医療費の無料化が進んで、今、高校生の無料化が始まりました。まだ東京都との間がごちゃごちゃもめています、今年の4月からスタートしております。

特別養護老人ホームのほうは、実績的な話をしますと、2009年度に45%でありました申込み後1年以内入所が今は90%になっていますので、ほとんどの人は半年なり1年で入所ができる。これもなかなか話題にならないのですが、こういう市はありません。もちろん特別養護老人ホームをたくさんつくっている青梅市とか、あきる野市とか、特別養護老人ホームでほかの都市から受け入れているところはそうではないのですが、そうでない立川から東のところはこういうふうに入所ができているところはありません。

例えば金井にある賛育会の理事長の人に、賛育会は葛飾だかあっちのほうにあるのですね、本部のほうはどうですかと言ったら、うちのほうはみんな群馬とかですと即座に答えていまして、特別養護老人ホームは区内に入れるわけではないと言っていましたので、23区の場合、非常に厳しい状況になっています。

もちろん首都圏からは秋田のほうに行ったりすると、皆さん分かると思いますが、首都圏からのお客様を受ける施設はたくさんあります。当然、秋田にあるということは、例えば足柄のほうにもあるし、秦野のほうにもあるし、そういう意味では、東京都内から行く人は、市外もしくは都外に入りますので、町田市内に1年以内に入るといって、ほかの市からは夢のような冗談みたいに受け取られるかもしれませんが、ほかの市では介護というのは非常に大きな問題になっております。

忠生にスポーツ公園が9月にできました。小山の上沼にもできたり、後田にもできているのですが、スポーツ公園はかなり盛況です。一番大きい要素は、芝生です。町田シバヒロは皆さん使ったことがあるかもしれませんが、あそこだけで芝の管理だけで1年間に2000万円ぐらいかかっています。忠生のスポーツ公園もそこまではいかないですけども、1000万円とか500万円とかというお金はかかると思いますが、芝生です。結構刈り込んでいます。朝の6時はやたらと高齢者が体操に来ていたり、若い人がランニングに来ていたりして、一日中きっちり、ウイークデーも含めて使われています。芝生の広場はシバヒロと同じように、かなり利用密度が高いので、何もない芝の広場をきっちりつくるというのは、かなり需要があるということが分かりました。

香山園のほうは今のところ1年後の2024年度の、2025年1月に開園する予定になっています。もうすぐ指定管理者の議案が出てくると思います。

(仮称)国際工芸美術館整備工事が半年以上遅れています。資材、労務賃の高騰で不調になっています。それは関西万博も同じですが、あっちは何千億、うちは何十億ですから、スケールは違いますが、同じようにかなり不調になっています。

最後に、資源ごみ処理施設の整備の話なのですが、資源ごみ(ビン、カン、プラスチック等)の施設の整備が遅れています。相原地区の施設が2028年度で完成ということなので、その後、上小山田地区の施設は2037年度になっていますが、それくらい、市内のビン、カン、プラスチックの施設の整備が遅れています。

現在の土地にもう一度清掃工場を建てるという結論を出すときに、現在併設されているビン、カンの処理施設を25年度で廃止する、引っ越しすると。最初は引っ越しすることだったのですが、そのうち廃止することになりまして、これは清掃工場をもう一度同じところにつくるときの約束というか、条件でやめますと。どうするかというと、民間の事業者にはビンやカン、容器包装プラスチックの処理をお願いします。容器包装プラスチックはJR横浜線の南側で一部やっていますが、それ以外は全部お願いするというので、2026年度から、町田市全域が容器包装プラスチック分別になります。三

多摩26市の中のごみの資源化率は下から3番目なのです。それを何とか上から15番目ぐらいまでに引き上げようということにします。

つまり、プラスチックを今燃やしています。プラスチックを燃やすと非常に大きな二酸化炭素が出ます。ですから、重さは軽いのだけれども、燃やすと非常に多く出ます。燃やさないためには、2026年度から、ベールというのですが、1mのさいころ状にした、あのスタイルにしなければならないということで、2026年度から外部の事業者をお願いします。市全域がピンク色のごみ袋になります。容器包装プラスチックを入れていただいて、ごみ袋の価格は、ピンクの袋は黄色の袋の半分ですから、そっちを買っていただいて、生ごみだけを黄色の袋のほうに入れてもらうという仕組みになります。それが2026年度からで、そろそろ迫っています。

内輪の話ですが、自力で、自分のところの施設でやるより倍ぐらいの単価がかかります。民間は自分の施設を持ってやっていますから。でも、それはCO₂の削減という考え方からいったら、施設の完成まで待ってられないという感じで、CO₂削減という意味で、容器包装プラスチックは分別、全市域やります。貧しい市役所ですから、結構きついのですけれども、それはそれでしょうがないということで、2026年度からやります。分別協力のお願いを町内会・自治会連合会を通じて、地区連合の皆さんにもお願いして、各町内会の皆さんにも講習なり何なりに出していただいて、分別のやり方を勉強していただくことに再来年度からなると思います。

最後に、さっき図書館の話があったのですが、町田市としても、あるいは地域の皆さんとしても、図書館ではないということをはっきりしています。その図書館ではないというのは、実は図書館という名前は何を意味するかというと、建物ではないのです。図書館のシステムのことを図書館、正確に言うと図書館システム、もっと言えば市立図書館システムと言ったほうがいいのですね。蔵書を図書館の車で配送して、あちこちの図書館に行ったり来たりします。そこに置いたものを借りて戻してというシステムは、全部図書館システムの中でやっています。システムそのものを言ってしまえば図書館と言います。図書館のシステムはそういう意味では、鶴川の現在の図書館は図書館のシステムなのです。入ってきて、配本されて、戻してというシステムになっているわけです。ただ、そのシステムから断ち切られるという意味で図書館ではなくなるというので、建物のことではないのです。無償で本が借りられるという大きなシステムが図書館ということなのです。

《質疑》

鶴川四丁目富士見会

質問しようかどうかといういろいろ考えていたのですけれども、私は鶴川四丁目ですので、近隣の鶴川3丁目、5丁目、一・七会とか、真光寺町内

会、住民の方とか、それから、各会長の人から時々お話が出るのですけれども、鶴川団地が大分住民が減って空洞化してきて、真っ暗になってしまっているのではないかというような、これから鶴川地区においては、芝溝街道から北というと、ほとんど何もないですね。団地を取り巻く商店もどんどん閉鎖されました。今、太陽の広場に残っているだけみたいな感じになってきております。鶴川団地というものが将来的にどういうものになっていくのだろうということを、町田市では何か構想とか考えとかはあるのでしょうか。

町田市長

東京都内で団地の数が一番多いのは葛飾で、町田市は2番目なのです。東京都住宅供給公社と日本住宅公団、今の都市再生機構の数の一番多いのは町田市ともう一つです。そこが土地も持っているし、管理もしている。建物も持っています。したがって、そこが計画を立ててやっているわけです。ですから、町田市はどちらかというと、その計画に協力するぐらいの立場しかなくて、こうしろああしろということを家主、事業主になかなか言えないということがあります。

ただ、そうは言ってもいられないので、都市づくり部としては公団、あるいは公社と団地体制の中身の打合せはしています。ただし、公団であれば賃貸事業本部というのがあるのですが、そこが考えているのは依然として賃貸事業なのです。分譲のところはまた開発部門がやっていて、全体として構想をどうするという話までまだありません。

つまり、空洞化をすることがもう20年前から分かっていたのですが、20年間検討していますという答えしか返ってきていません。さっきの道路みたいな話で、今後、20年間、また検討しますとは言わないと思いますが、限界にそろそろ来ています。賃貸の問題は非常に大きな問題なのです。入居するときの大原則として、公的な住宅ではないものだから、民間の住宅として作り替えるということは、採算を取るとなると、ほとんどの場合は値上がりします。そこで、今だって高いと言っている人が、値上がりしたらどこへ行けばいいのかと、そういう問題になります。というのは、今のサイズの住宅より多分大きなものになると思います。サイズがアップして値下がりすることは多分ないのです。ですから、どうやってそこで暮らすのか、出ていけと言うのか、という議論にどうしてもなるので、なかなか賃貸は進んでいません。分譲のところのほうがまだ進めやすいので、それはそれで少しずつできると思いますが、全体としての計画がまだできていないのはそんな事情にあります。

ですから、これは私は市役所で言ったことはないですけれども、大きく出ると、日本の高度成長を支えてきた労働力を全国から集めてそこに住まわせて、それで成長を支えてきたのだけれども、あとは知らないよという国の住

宅政策そのものに問題があると思っています。それだけ頑張ってきて、最後は、建て替えるから出ていけという話になったのでは、論理的には説明できても、感情的にはなかなか納得できないのかなというのが正直なところです。それがやっぱり再生計画が進まない一番の大きな原因かなと思っています。

○閉会の挨拶（鶴川地区町内会・自治会連合会）

鶴川駅北口広場の完成イメージ図

議題1(2) 資料

2024年度～
施工範囲(自由通路 ほか)

自由通路・上屋

バス乗降場
(2027年度完了)

バス乗車場(現状)

タクシー
乗車場

バス
降車場

一般車送迎
スペース

バス乗車場

タクシー
待機場

バス
待機場

2023年度施工範囲

2024年2月切り替え予定

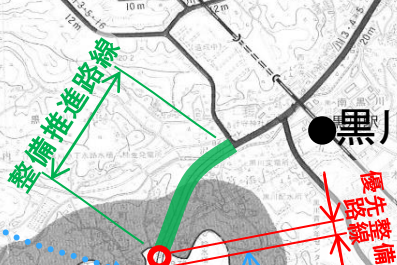
※完成イメージ図は変更となる可能性があります。



鶴川地区 市政懇談会 資料



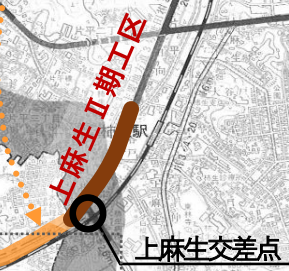
3(1) 真光寺から黒川に抜ける都市計画道路の整備促進の働きかけ



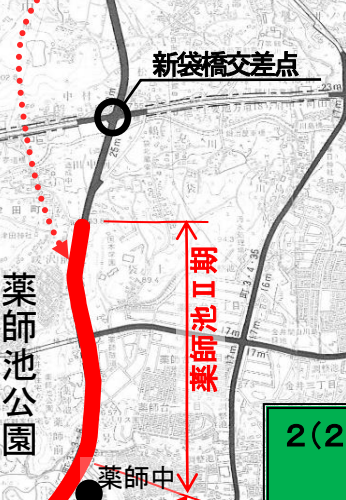
3(2) 広袴から栗木への都市計画道路の整備促進の働きかけ



2(1) 鶴川駅東口交差点から上麻生交差点に至る渋滞解消対策



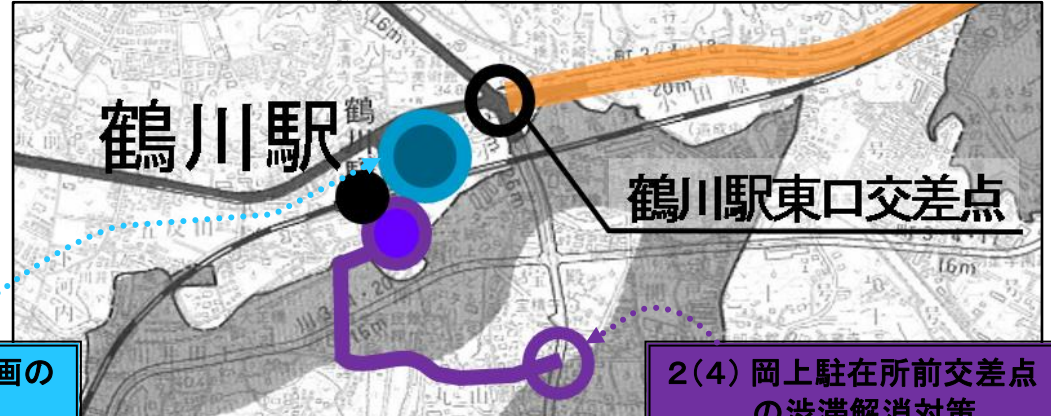
2(3) 鎌倉街道の整備促進と交通渋滞解消対策



2(2) 金井入口交差点の渋滞解消対策



〔鶴川駅周辺の拡大図〕



1(2) 北口広場拡張計画の進捗状況

2(4) 岡上駐在所前交差点の渋滞解消対策